Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

NEWS

発行部数14万部
非売品（季刊）
2024.10.20 Autumn
No. 84

人は自立して生活することで幸せを感じられる

障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

いま改めて「働く意味」を問う

奨学生レポートVol.15
岩川　佳士乃さん　日本大学芸術学部放送学科4年
追い求める未来は　自らの精一杯を賭けて

助成先レポートVol.50
（社福）楽山・杜の会　やろまいか
よもぎに着目して規模拡大。一点突破からの次なる展開は

リレーコラム
夢をつないで
第32回

株式会社ミライロ
代表取締役社長　垣内 俊哉

Profile
1989年生まれ。岐阜県中津川出身。2010年、立命館大学経営学部在学中に株式会社ミライロを設立。障害者や高齢者へのサポート方法などを伝える「ユニバーサルマナー検定」や、障害者手帳をデジタル化した「ミライロID」など、障害者をはじめ多様な方々に向けたサービスを展開している。
2022年には財界「経営者賞」を受賞。同年から国家戦略特別区域諮問会議に有識者として参加している。

今日を楽しみ、明日を期待できる世界の実現のために

2024年4月、改正障害者差別解消法が施行され、民間事業者による障害者への合理的配慮の提供が努力義務から法的義務化されました。今後は障害者から配慮を求められた際に、事業者の過重な負担がない範囲で、合理的配慮を提供することが必要となります。

法的義務といわれると構えてしまう方もいるかもしれませんが、必要以上に怯えることはないと考えています。重要なのは、目の前の人とどう向き合い、対話を続けていけるかということです。

私は骨形成不全症という難病があり、幼少期より車いすに乗って生活をしています。自身の障害を卑屈に捉えていた時期もありましたが、多くの方々との出会いにより、障害を価値に変える「バリアバリュー」という考え方に至りました。

当社では2013年より、多様な方々へ向き合うための「マインド」と「アクション」を身につける「ユニバーサルマナー検定」を運営しています。障害者や高齢者へのお声がけやサポート方法など、学んだその日から実践いただける内容です。

ヤマトグループさんでは、人権・多様性を尊重し、〝誰一人取り残さない〟社会の実現を目指しており、個々のお客様に寄り添うべきという強い想いのもと、2022年にグループ独自の検定カリキュラムを共同開発しました。現在、ヤマト運輸社員の皆様が受講を進めてくださっています。

地域と密接に関わるセールスドライバーの方々が、ユニバーサルマナーという共通の価値観を持ち、お客様と対話を続けていただけることは、より多くの人の豊かな生活に繋がります。

障害者差別解消法、そして来年の大阪・関西万博や東京2025デフリンピックなどが追い風となり、あらゆる事業者でDE&I※が推進されています。ヤマトグループの皆様とともに、この流れをより勢いづかせ、大きなうねりへ変えていけたらと願っています。障害者やその家族が今日を楽しみ、明日を期待できる世界の実現のため、私たちはこれからも歩み続けます。

※DE&I：「ダイバーシティ（多様性）」、「エクイティ（公正性）」、「インクルージョン（包含性）」の頭文字を合わせた概念

CONTENTS

表紙写真　9月26日、沖縄県宜野湾市で開催した「おしごと発見フェア2024」で、スタッフ、参加企業、ボランティアのみなさんが集合

03 人は自立して生活することで幸せを感じられる
2024年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラム いま改めて「働く意味」を問う

07 2024年度ヤマトグループボランティアプロジェクト
地域と繋がるボランティア　農業編
2時間で200kgの皮むきを完了!!　私たち、頑張りました!!

08 奨学生レポートVol.15
岩川　佳士乃さん　日本大学芸術学部放送学科4年
追い求める未来は　自らの精一杯を賭けて

10 助成先レポートVol.50
（社福）楽山・杜の会　やろまいか（岐阜県海津市）
よもぎに着目して規模拡大。一点突破からの次なる展開は

12 障がい者の働きたいを応援する!!
おしごと発見フェア2024

14 農福連携実践塾
夢へのかけ橋実践塾
新堂塾OBOGフォローアップ研修会

日本障害フォーラムが推進するイエローリボン運動に賛同しています。

2024年度

障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

人は自立して生活することで幸せを感じられる

2024年度テーマ

いま改めて「働く意味」を問う

7月5日(金)東京会場
東京都立産業貿易センター浜松町館3階展示室

8月22日(木)大阪会場
マイドームおおさか2階展示ホールD

障がいのある方を取り巻く環境と福祉施設のあり方をともに学ぶ

本年度のパワーアップフォーラムは、7月5日に東京会場で、8月22日に大阪会場でリアル開催しました。会場に集まったのは、今後の福祉現場のあり方を模索する方たちです。

開催にあたり山内理事長は「この酷暑のなか、みなさんに会場まで足を運んでいただけるのか正直不安でした。しかし、こうして会場の奥まで参加者で一杯になっている様子を見て安心すると同時に、みなさんの熱意に心が震えています」と挨拶。

「いま障がいのある方と福祉関係者を取り巻く環境は急激に変化し、同時に世間の目は現場を支えるみなさんに集まっています。その目線の先に、障がいのある方々と真摯に向き合うみなさんの姿があれば、人々の信頼もより高まっていくでしょう」と伝えました。

山内理事長

ホームページでの動画の掲載

QRコードにて、ヤマト福祉財団ホームページより、YouTubeにてご覧ください。

配信時期　2025年3月末まで(予定)

有識者や福祉現場をリードする先駆者の考え方や体験から新たな気づきとヒントを

東京都認証ソーシャルファーム3年間の取り組み
（有）まるみ 取締役社長 三鴨岐子氏

越境する福祉
（社福）福祉楽団 理事長 飯田大輔氏

「働いて暮らす」を実現する
埼玉県立大学 名誉教授 朝日雅也氏

障がいのある方たちの「働く意味」を改めて考える

本年度は、東京会場に114名、大阪会場に125名が参加しています。テーマは「〝人は自立して生活することで幸せを感じられる〟を大切に」。さらに今年度は「いま改めて〝働く意味〟を問う」をサブテーマとしました。

その狙いは、障がいのある方の「働く意味」について問い直すとともに、これからの障がい者福祉や共生社会のあり方をさまざまな視点から見つめ直すことで、参加者に新たな気づきを得ていただくことにあります。

本フォーラムの学びの方向性は、大きく二つです。一つは、障がいのある方と福祉に関わる方たちを取り巻く状況と環境の変化などをより深く知り、認識を高めること。

時流講座では（NPO）日本障害者協議会 藤井克徳代表が、両会場で「障がいのある人の今をどう読むか」を講演。さらに東京会場は、埼玉県立大学の朝日雅也名誉教授が「働いて暮らすを実現する」、大阪会場は、日本社会事業大学専門職大学院の蒲原基道客員教授が「障害者支援と地域共生について」と題し、それぞれ基調講演を行いました。

この街でおもろいことしょ！ほんで繋がろう！が好きな人
（NPO）縁活 常務理事 杉田健一氏

福祉現場を変える先駆者たち その苦労と喜びを共有する

もうひとつのポイントは、障がい者福祉の現場最前線で活躍される先駆者たちの考え方や取り組み方の実践例を学ぶことです。

今回は、第24回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者が登壇。東京会場は（社福）福祉楽団の飯田大輔理事長が「越境する福祉」、大阪会場は

（社福）さつき福祉会 グーチョキパン屋さん 大江晴樹さん（左）、（社福）ふたかみ福祉会 はぴきの園 三好優太郎さん（右）

（社福）武蔵野千川福祉会 佐藤隆憲さん（左）、（社福）きょうされんリサイクル洗びんセンター 渡辺正人さん（右）

働く中で喜びを
（社福）オリーブの樹 理事長 加藤裕二氏

障害者支援と地域共生について
日本社会事業大学専門職大学院 客員教授 蒲原基道氏

障がいのある人の今をどう読むか
（NPO）日本障害者協議会 代表 藤井克徳氏

（社福）オリーブの樹の加藤裕二理事長が「働く中で喜びを」のタイトルで、それぞれの実績を紹介しながら、現在の課題とこれから目指すことなどを語りました。

実践報告では両会場で（有）まるみの三鴨岐子取締役社長と（NPO）縁活の杉田健一常務理事が、日々試行錯誤しながら、利用者さん一人ひとりと向き合い実践している活動内容を報告しています。

さらに、関東と関西の福祉事業所の利用者さんが2名ずつ登壇し、当事者の声を発表。どんな仕事をしているのか、手にした給料で生活はどのように変化して来たかなどをうれしそうに語る姿に、会場は温かい拍手に包まれました。

最後は藤井さんがコーディネータとなり、講演者・報告者が話した内容を深掘りするシンポジウムへ。その場で来場者から質問を募り、登壇者がその悩みに答えるアドバイスタイムも。まさにリアル会場だからこそのメリットを活かした有意義な時間となりました。

閉会後には交流会も

フォーラム閉会後には、登壇者たちと来場者たちが自由に語り合える交流会も開催。講演・報告された内容により関心を抱いた点を質問したり、互いの活動を伝え合い、ネットワークを広げるために名刺交換を行うなど、まさにリアル会場開催ならではの利点を存分に生かすことができました。

会場アンケート

参加者からこんな声が集まりました

パワーアップフォーラムの歴史を紐解く

現在のパワーアップフォーラムの前身は「小規模パワーアップセミナー」で、1996年に小倉昌男初代理事長が、財団の事業としてスタートしました。当初は、全国各地の作業所運営者から参加者を募り、少人数による2泊3日の研修会というスタイルでした。

小倉さんが目指したのは「障がい者の自立」であり、それを「働いて、収入を得て、生活すること」と定義づけます。しかし当時は、障がいのある方たちのご家族が運営する共同作業所の時代。そこでは単価の安い下請け作業と、魅力的には見えない自主製品が作られていました。

「これでは儲からないし、とても自立できる給料を支払えない。福祉にも〝経営〟を持ち込むべき。福祉の知識はないが、経営のことなら私にもわかる」と自ら登壇。「月1万円しかもらえない人がいて良いのか」と説く小倉さんの講演は「福祉は金のためにやっているわけではない」という参加者の意識を次第に変えていきます。この時代のセミナー参加者には、大阪会場で小倉昌男賞受賞者講演を行われた加藤氏もいました。

回を重ねるごとに参加者の意識は強まり、実績は上がって来ます。しかし、その数は限られていました。そこでもっと多くの方が学べるように、2010年、大会場で200人規模の参加者が集う現在の「パワーアップフォーラム」へとスタイルを変えたのです。

本年度のパワーアップフォーラムの開催で、これまでの累計参加者は、1万3,000人を超えました。なお、2022年度の日本全国の福祉施設の平均給料は、就※労継続支援A型事業所で8万3,551円、B型事業所で1万7,031円となっています。

これからもヤマト福祉財団は小倉さんの意志を受け継ぎ「障がいのある人もない人もみんなが一緒に幸せに暮らせる社会」の実現を目指し、活動を続けていきます。

※障がいのある方に働く場やその他の活動の機会を提供して能力向上のために必要な訓練を支援する障がい福祉サービス事業所。
雇用契約を結び最低賃金を保障する「A型」と雇用契約を結ばないで利用する「B型」があります

2024年度 ヤマトグループボランティアプロジェクト

地域と繋がるボランティア

農業編

財団は、ヤマト運輸労働組合と連携し、地域にある福祉施設とボランティアを通じて繋がり、交流を深めていくボランティアプロジェクトを進めています。今回は青森県十和田市にある農楽郷ここ・カラダで作業をしました。

ニンニクの収穫は予定より早い時期になってしまい、ボランティアの日には、ちょっとだけ収穫体験をして、そのあとは黒ニンニクを作るためのニンニクの皮むきを手伝いました。作業のあとは十和田のソウルフードのバラ焼きとニンニク味噌のおにぎりで、ホッと一息つきました。

青森支部 2時間で200kgの皮むきを完了!! 私たち、頑張りました!!

6月とは思えないほど、真夏の太陽が注ぐニンニク畑に集合したのは、ヤマト運輸労働組合青森支部のみなさん20名です。今回は十和田市にある農楽郷ここ・カラダで、ニンニクの収穫と皮むき作業のお手伝いをしました。

農楽郷ここ・カラダは名前の通り、「農業を楽しみながら、地域で安全に暮らしていけるように」と2009年に設立。最初は内職などの仕事で低工賃でしたが、12年前からニンニクの栽培を始めました。土壌改良にも取り組み、今では1.5ヘクタールのニンニク畑があります。2017年には財団の助成でニンニク植え付け機やトレーラーを導入。機械化で年間20～30トンの収穫ができるようになりました。工賃も30,000円を超えています。

ニンニクの植え付けは10月、東北の厳しい冬を乗り越えて6月に収穫。収穫後に茎を切り落とし、黒ニンニクに乾燥・加工するため、皮を剥いて「6片」の形に整えていきます。皮むき作業は普通なら1日1人20kgぐらい作業をするところ、青森支部のみなさんの頑張りで、何と2時間で約200kgの皮むきを完了しました。

青森支部の坂井委員長は「ニンニクの皮むきは重労働です。これで終わらず、支部としてちょっとしたお手伝いでも地域の一員として一緒にやっていきたい。財団を創られた初代理事長の小倉昌男さんの思いをしっかり引き継いでいきたいと思います」と挨拶をされました。

秋には、サツマイモの収穫を予定しています。

十和田のソウルフード・バラ焼きをいただきました。

江古田キャンパスのギャラリー棟の前で。

私たちの賛助会費が生かされています

奨学生レポートVol.15

学びたいことがあるから、
挑戦したいことがあるから…。
そんな想いで大学に進学をした
障がい学生がいます。
そんな彼らを奨学金制度で
応援しています。

岩川 佳士乃さん

日本大学
芸術学部放送学科4年

中学～大学まで放送部・放送研究会に所属。高校1年のときに受けたアナウンス講習会で、講師に全盲のアナウンサーがおり、自らもアナウンサーという職業を意識するように。学内外のイベントでの司会やコメンタリーガイドの活動にも積極的に挑戦している。

障がい者奨学金制度

社会の役に立ちたい、自己実現を図りたいと、障がいを乗り越えて大学で熱心に学ぶ方々に月額5万円（返済不要）を助成しています。

追い求める未来は 自らの精一杯を賭けて

アナウンスとの出会い

大学入学を機に鹿児島から上京した岩川佳士乃さん。放送学科でアナウンスやCM制作について学ぶ4年生です。明るく、ハキハキとした話ぶりが印象的です。

その佇まいからは想像もつきませんが、物心つくまえから、9度もの大きな手術を経験してきました。背骨が湾曲して成長し、それが内臓にも悪い影響を及ぼしたり、右手の関節が癒合するといった症状のためです。

「原因は分からないんです。でも今はわりと身体の調子も良くて、健康に過ごしています。手術のおかげで痛いコルセットも手放せるようになりました」

中学に入り、書道部と数学オリンピック部に入った岩川さんは、ある日「放送部に入らないか？」と顧問の先生から誘われます。これ以上の掛け持ちはと受け流していましたが、ついには職員室で入部届を渡されてしまいます。

国語科だった顧問の先生は、授業での岩川さんの音読に惚れ込み、熱心に勧誘したのです。

中学2年生で出場したNHK杯は朗読部門で全国大会まで進み、他校主催のアナウンスコンテストでも、3年生で最優秀賞を受賞と、気がつけば、放送部の魅力にすっかりはまっていました。

「高校でも続けたい思いが湧いて、放送部がなかった高校では部を作っていただきました」

東京パラ2020に感じた運命

やがて学年も上がり、夏休みに進路相談が行われました。

「こんなに夢中になったアナウンスを続けていきたい」と口にしましたが、担任の先生は「夢を変えて」と否定的でした。

「就活で悩んだとき親身に相談に乗ってくださった」というゼミ指導の兼高聖雄教授の研究室で。

研究や授業のために、シナリオやDVDなど貴重な資料を図書館で探すこともしばしば。

東京パラのキャスト応募には、「オリパラが開かれるか分からないけど、もしこのオーディションに通って出演することができたら、東京に行けたら、自分の道が変えられるかもしれないと思った」と岩川さん。

「アナウンサーではなく総合職でどうですかと、就活で言われたときはショックでした。とある2次面接で落ちたときは、先生に報告の電話をして、泣いてしまったこともあります」と岩川さん。

強いショックを受け、学校へも通えなくなりました。手に職をということで、浪人の末、九州のとある薬学部に進学したのは2020年のことです。

相前後してそのころ、一つのネット記事が岩川さんの目に留まります。東京パラリンピック開会式のキャスト募集オーディションです。センター試験の前夜、「パソコンで志望動機の文章を書いて、気づけば応募していました」。なんと一次審査は無事、通過！

「二次の面接では、東京で練習が続きますが参加できますかと尋ねられて、思わず『はい、行けます』と言ってしまって…」

九州から練習に通うことは難しい。でも、あるインスピレーションが彼女を捉えていました。

「もし、このオーディションに受かって式に出演できたら、自分の道が変わるかもしれない」

折しもコロナの流行が重なり、開催は1年延期が決定。そこで「親や親戚が集まった時にもう1年浪人させてほしい。東京の大学に進路を変更させてほしいとお願いしました」

有言実行、岩川さんは2021年に難関の日芸に合格。そして夏、パラリンピック開会式にも念願の出演を果たしました。

就活で感じた社会の壁

夢の実現に向けて、就活には早くから取りかかりました。

「2年生からアナウンサー志望で各局のインターンシップやアナウンススクールを受けました」

北は北海道から南は鹿児島まで25社以上に挑戦する日々。旅費も馬鹿になりません。

「アルバイトの収入だけでは賄えなくて、財団からいただいた奨学金を貯めて充てました。もう本当に感謝しています」

3年生となり就活が本格化すると壁の高さも実感しました。

「どんどん落ちるので、とにかく『次、次！絶対、内定取る』と前を向くよう心がけました。

でも、障がいがあるっていうことは、自分が思っていた以上に難しいことなんだなと…。

トントン拍子で進んでいたのに、面接で障がいの話をした途端、顔色が変わる、空気が変わったと感じることもありました」

今年、「第20回ACジャパン広告学生賞」テレビCM部門で、岩川さんが代表を務め、4人の友人と制作した作品が見事、グランプリを射止めました。

作品タイトルは「募集要項」。

校舎のエレベーターに向かう3人の学生が就活について話していると、一人の女の子の足が止まります。閉じたエレベーターの扉には大きく「心身ともに健康な人」の文字が――。

募集要項の常套句を切り口に、自身の就活で抱いた違和感を30秒に込めた作品が、高い評価を得たのです。

紡いだ夢と就活の行方

「3つの放送局から内々定をいただきました。九州地方の局からは、『アナウンサー職は難しいけど、制作などの総合職で進みませんか』と、お話しをいただきました。東海地方の局は今年アナウンサーの募集がなく、こちらも総合職での内々定でした」

最初は気持ちの切り替えが難しかったと岩川さん。しかし、今はこう考えています。

「AIアナウンサーが登場する時代になって、より求められるようになるのは、自分で取材し、思いを伝えること。

だったら放送学科でやってきたことは、記者やレポーター、ディレクターやプロデューサーであっても、きっと役立つはず」

病気で苦労した経験を生かし、社会で困っている人の存在を伝えたい。世の中が変わるきっかけとなるような番組を作りたい。岩川さんは来春の入局を待ち遠しく感じています。

よもぎに着目して規模拡大。一点突破からの次なる展開は

自然豊かな養老山地の中腹で2001年から活動する〈やろまいか〉。隣接する心療内科・精神科の養南病院と連携して、利用者と地域のニーズに応えています。農業や養鶏事業からスタートし、伊吹山の国産よもぎに成長を賭けた、これまでの足取りを伺いました。

Data

社会福祉法人 楽山・杜の会 やろまいか（岐阜県海津市南濃町）
2020年度 障がい者給料増額支援助成金「よもぎ事業の売上拡大計画」（500万円）
助成内容：よもぎ加工処理と新商品開発のための工場改装工事資金
就労継続支援B型　在籍120名
売上 6,191万円／月額平均工賃（B型） 19,649円（2023年度）

左から、小山亜希子施設長と横井治子課長

事業所から車で20分ほどの畑は、一面のよもぎでいっぱい

風味豊かな餅生地と餡がウリ

岐阜県の南端に位置する海津市。揖斐川が市の中央を流れ、西は養老山地を隔てて三重と隣接します。その養老山地のふもとに、青々とした2000坪の畑が広がっていました。茂るように元気に育つ「よもぎ」です。

この地で障がいのある方の就労をサポートしてきた〈やろまいか〉は、当財団の助成を活用して、2020年10月によもぎの加工場を整備しました。畑で自家栽培したよもぎを加工して作る「草餅」は自慢の一品。

「この辺りは昔から草餅が有名なんです。市内に『おちょぼ稲荷』というのがあるんですけど、お参りに行ったらみんな買って帰るみたいな」と、施設長の小山亜希子さん。

おちょぼさんの愛称で親しまれる千代保稲荷神社は商売繁盛で知られ、遠方からも年間200万人が参拝に訪れます。天然よもぎの香り高い草餅は参詣の定番土産です。

後継者がいない和菓子店から、技術や機械を譲り受け、〈やろまいか〉は2005年から本格的に草餅の製造に参入しました。

「最初は小さいプレハブで始め、夏場は傷むのが早いので休んだりもしていたんですが、サービスエリアなど温度管理をしていただけるところにも徐々に商品を置いてもらえるようになって、通年で作るようになりました」

衛生的な製造環境の整備を痛感

2011年には製菓工場も完成し、製造も大規模に。横井治子課長は「2019年の10月には、月4万6,000個ほど作っていました」と語ります。休むのは元旦だけ。毎日、製造しているそう。ただ、生産数が増えるに従い、品質面で問題が生じてきました。

収穫されたよもぎは洗浄し茹で、一晩置きます。翌朝、もう一度洗って脱水、冷凍します。草

衛生的に整備された加工場で、熱心な作業が続きます

助成を活用して改装したよもぎ加工場（外観）

やろまいかの自信作。左手前から草餅、よもぎ入浴剤にバスソルト

一角で乾燥中のよもぎ、ゆずはバスソルトの原材料に

乾燥粉砕したよもぎを、専用の袋につめたら入浴剤に

摘み取られたよもぎ。こちらでは年3回は収穫できるそう

楽山草餅専用の冷蔵ケースで販売されている（道の駅　月見の里）

餅を製造するときには、冷凍保管されたよもぎを解凍。改めて異物をチェック、太い茎なども取り除き、餅米や米粉といっしょにせいろで蒸して、餅つき器にかけるという流れです。

「よもぎの前処理を事務所の食堂で行っていたんですけど、人の出入りも多いですし、衛生的とは言えませんでした。それでよもぎ加工場の整備を目標に、助成の申請をお願いすることにしたのです」（横井さん）

完成したよもぎ加工場は10坪ほど。昔、お菓子づくりに利用していたぼろぼろの建物を、内外装は天井から床まで張り替え、業務用のシンクやコンロ、換気扇等を導入しました。稼働以来、異物混入の苦情もなくなり、利用者さんの作業に取り組む熱意もぐっと上がったと言います。

総売上はピークの2022年度で約7,600万円を達成。現在は遠方で納品に経費ばかりかかる販売先の見直しを進めた結果、売上こそダウンしましたが、利益率は上昇。施設への入所希望者が多く、利用者も助成申請時の85名から、延べ120名にまで増えましたが、平均給与は月約2万円をキープしています。

一本足打法からの脱却

年間を通して、同じ色合いや硬さを保つのが難しく、苦労もあったという草餅ですが、販売を通して地域と交流したり、「美味しかった」と感想をもらうことで、やり甲斐と達成感を利用者にもたらしてくれました。

ですが、「これまでのやり方に満足していてはいけないとも感じているのだそう。

「正直、草餅に頼りすぎるのを今、脱却しようとしてます」と小山さん。「よもぎ自体はとても良いものなので使っていきたいんですけど、あまりにも生ものに頼りすぎていたので。364日作らなきゃいけないことかと…」と続けます。

草餅が売上に占める割合は8～9割。そこで積極的に6次産業化を図り、ここ数年は新商品の開発に挑んでいます。

「温活ブーム」を狙い、2020年度に商品化したよもぎの入浴剤をはじめ、ハーブや花、柑橘類をブレンドしたバスソルトを、関ヶ原古戦場の売店や「楽山ヤフーショッピング店」を中心に昨年から販売。

「今年は生姜糖を作ろうと、畑に生姜を植えました。失敗したときのことも考えていて、そのときは入浴剤にする予定です。

青臭さがどうにも取れなくて一度は諦めた〈よもぎ茶〉も、今年の6月にやっと美味しいものができたので、今、検査に出しています」と、横井さんは期待をにじませます。

草餅に代わるヒットを打ち出すべく、毎年1つは新商品を出すことを目下の課題にしている〈やろまいか〉。

「やろまいか」は、地元の言葉で「やりましょう」を意味します。そして「楽しく楽しくやろまいか」が、事業所の活動のモットー。その言葉どおり、ともすれば自己肯定感が低くなりがちな利用者さんに自信をつけてもらい、「もう一回、外に行って就職しようとか前向きになってもらいたい」と小山さん。

そのためにも商品開発にチャレンジして、次の展開をつかみたい。穏やかな雰囲気のなかにも、地域のニーズに応えたいと願う強い気持ちが伝わってきました。

労働組合支部執行委員長
助成先訪問 Series 45

ヤマト運輸労働組合
岐阜支部執行委員長
熊田 浩章さん

寄付したと臆せず言っていこう

助成の直後にご挨拶でお伺いして以来でしたが、取り扱うよもぎの量も桁違いに増え、手探りでやられていた感じから、熟練された雰囲気に変わった印象を受けました。

小倉昌男さんの理念に共感して、夏のカンパや賛助会費など、一人一人はそれほど大きくない金額ではあると思いますが、集まればこうやって地域社会に貢献ができる。すごいことだと思いますし、自分の住んでいる地域であれば、これほど嬉しいことはありません。

能登半島地震のときもですが、著名人の炊きだしや寄付に「偽善」と言う人がいます。ですが、公表がきっかけとなって、「じゃあ俺も」と寄付の輪が広がることもあるという意見に私は賛成です。ささやかですが自分も積極的に言っていきたいと思っています。

＼ 障がい者の働きたいを応援する!! ／

おしごと発見フェア2024

合同企業説明会

高校生ボランティア

オープニングセレモニー

企業の仕事を体験できる、唯一のイベント

沖縄パワーアップフォーラム分科会活動から誕生した「ゆいジョブ!実行委員会」とヤマト福祉財団が主催する障がい者と企業をつなぐ参加型イベント、おしごと発見フェアが9月26日、沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催されました。

3年目になる今回は、特別支援学校をはじめ、障がい者施設、一般の方など、昨年より150名も多い、約580名の参加がありました。

オープニングセレモニーでは、沖縄県知事の玉城デニー氏から「このフェアを通じ障がいを持っておられる一人でも多くの方が希望する仕事に出会い、輝ける場所を発見できることを願っています」と、ビデオメッセージをいただきました。

企業や仕事を知っていただく入口として

今回の「おしごと発見フェア」は、障がいのある方々が、「働くとはどんなこと?」「企業で携わる仕事はどんなこと?」を具体的にイメージしていただきたいというゆいジョブ!実行委員の思いから、「おしごとチャレンジ体験会」を充実させ、会場の2／3のスペースで展開。昨年参加して手応えを感じさらに大掛かりな体験を実施した企業、障がい者雇用に対して新たに取り組みを始めようとする企業など、14社が出展。すぐ雇用につなげるというより企業や仕事を知っていただく入口として、障がいのある方が、興味を持ったり、可能性を発見していただくエリアです。「施設で働いているけれど一般企業に就職したい」「IT関連の仕事に興味を持っている」など、仕事を体験した参加者が感想を話してくれました。

また、会場スペースは1／3になりましたが、就活したいという方のために合同企業説明会も実施。沖縄ヤマト運輸はもとより琉球銀行様、JTA様、JTB様などはじめての参加もありました。参加企業は、「こんなに集まってくれるとは予想していなかった。用意した資料が足りなくなった」と話しています。

自分が働けるのか、働くためにどうしたらいいのかわからないという方のために、「なんでも相談コーナー」も設置しました。

「会って、体験して、相談して」3段階に対応できる沖縄県で唯一の総合イベント「おしごと発見フェア」。今回は地元の高校生が授業の一環としてボランティアで参加しました。また当日は、地元のテレビ局、新聞社などの取材も多数あり認知度も上がってきています。

実行委員会は既に、来年へ向けての準備を始めています。

後援：沖縄県／沖縄県教育委員会／沖縄労働局／独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構沖縄支部／沖縄県中小企業家同友会／沖縄経済同友会／沖縄県商工会議所連合会／一般社団法人沖縄県経営者協会／沖縄県商工会連合会／沖縄タイムス社／琉球新報社（順不同）

※本フェアは、ゆいジョブ!実行委員会とヤマト福祉財団が主催し、沖縄県を始め多くの後援を得て企画されたものです

おしごとチャレンジ体験会

仕事はどんなことをする？　沖縄にどんな企業がある？　面接はどうする？　やってみて、自分にどんなことができるのか、興味が持てるのか、社会への入口を体験します

(有)仲松ミート

ドッグフードの計量・袋詰め・シーラー止を体験。「一般就労を目指してどんな仕事があるか見学している」と参加者

うみりく食品卸センター(株)

障がい者雇用を進めるために参加。海ぶどうのパッケージ詰めを体験していただいた

イカリ消毒沖縄(株)

昨年参加して、障がいのある方にできる仕事がたくさんあることがわかった。虫捕獲トラップの作成や捕獲した虫のカウントなどを体験。福祉事業所への委託や障がい者雇用も実践していきたい

オフィスキャリエール

「ビジネスメイクを体験、キレイになって嬉しい。眉毛の描き方も教えてもらった」と参加者

(株)琉新の風

車椅子を押したり、介護支援を体験。「車椅子の方に振動が行かないようにするのが難しかった。この仕事に興味があります」と特別支援学校からの参加者

(株)ベルシステム24

今回はおしごとチャレンジのみの出展のため、ハイスペックのマシンを用意。映像編集などを体験

ゆいジョブ!実行委員インタビュー

(株)小梅と諭吉舎　代表取締役

朝比奈めぐみさん

3年目を迎えたおしごと発見フェア
これまでの苦労や次に向けての抱負を伺いました

「障がいのある方は社会に出る経験やチャンスが少ないので、『どんな仕事があるのか、自分に向いているのは何だろうとか、沖縄にはどんな企業があるか』というキッザニアのような障がい者版のイベントをしたい」と、沖縄パワーアップフォーラム第2分科会のメンバーで話をしていたんです。当時はコロナ禍の真っ只中。何度も延期を繰り返しようやく開催にこぎつけましたが、メインとなる「おしごとチャレンジ体験」は、一般企業ではなく、福祉事業所だけで行うことになった。これが1年目です。

ところが、コロナ禍の自粛で人が来るだろうか心配をしていたら、特別支援学校や福祉事業所の利用者さんが団体で来てくださって、『いつになったら体験できるのか、会場が狭すぎる』など逆にクレームをいただくほどに。こんなにニーズがあるんだと実感しました。それで2年目の昨年はコンベンションセンターの会議棟から展示棟へ会場が移ったんです。2年目の課題は、おしごと体験を一般の企業さんにやっていただくこと。認知度もなかったので企業開拓に苦労しましたが、おかげさまで3年目の今年は企業さんから、出展したいとお問い合わせをいただくようになりました。

私たちはフロントランナーとして、他にはない「おしごとチャレンジ体験会」をメインにしたイベント、マルシェなども含めた取り組み全体を、他の地域にも発信していきたい、これが次に向けての課題だと考えています。

合同企業説明会出展企業一覧：
(有)大宮工機／沖縄ヤマト運輸(株)／(株)那覇ミート／日本トランスオーシャン航空(株)／ウイングアーク1st(株)／沖縄JTB(株)／琉球銀行／(株)ビースタイルチャレンジ／医療法人おもと会／サンエー運輸(株)／(株)ソルパック／(株)アイセック・ジャパン(全12社／順不同)

おしごとチャレンジ体験会出展企業一覧：
沖縄ヤマト運輸(株)／うみりく食品卸センター(株)／(有)たけ事務／(株)ソルパック／(有)仲松ミート／(株)メガネ1番／イカリ消毒沖縄(株)／沖縄ホンダ(株)／洋服の青山／オフィスキャリエール／(株)琉新の風／(株)ビースタイルチャレンジ／(株)ベルシステム24／(株)アイセックジャパン(全14社／順不同)

農福連携実践塾

第2期ぶどう栽培塾が9月の第5回研修会でファイナルを迎えました。第2回たまねぎ栽培塾はいよいよ種蒔きの実地研修です。ぶどう栽培塾もたまねぎ栽培塾も、1年を通して収穫に至った1期生の成果発表を行いました。

第2期ぶどう栽培塾　9月12-13日

農業で工賃向上を実現するために

塾長施設のピアファームに、1期生・2期生が集合しました。今回は、2期ぶどう塾の最後の第5回研修会で、梨・ぶどうの収穫体験、1期生の成果報告会を行いました。東京からオンラインで参加された山内理事長は、「発表を聞いて、いろんなことを学んでもらったと思う。塾を引っ張ってくださった林塾長にまず感謝を申し上げたい。ぶどう栽培の取り組みが利用者さん、職員のみなさんにとって新しい価値を生んで来ると思う。なによりこのネットワークを大事にしていただきたい」と、話しました。林塾長は「ぶどうは、販売もしやすい、加工もしやすい果樹。農業で工賃向上するためには、収入に対して原価がどうなのか、経営的なバランスを見ながら収益を上げていってください」と利用者さんの工賃向上へのメッセージを伝えました。

第2期たまねぎ栽培塾　9月20-21日

成功する人はやるべき時にやっている

第2回たまねぎ塾は、1期生の施設である、豊田市の無門福祉会で開催しました。1日目は昨年度、種蒔きから収穫まで行った1期生の成果発表会を実施。うまく栽培ができたところ、失敗があった塾生もいます。小淵塾長は総括で「新しいことにチャレンジする大切さと、その分析・行動のPDCAが重要。失敗は農業でなく、やるべき時に作業ができない施設運営が原因だったと言う事もある。成功している人は、やるべき時にやっている。準備や計画に重きを置いて進んで欲しい」と、伝えました。

翌日は「種蒔き」の実地研修です。今回は山内理事長も参加し、1期生と2期生が一緒に作業をしました。作業のあと山内理事長が塾生に向けて、『百聞は一見に如かず』ということわざがあるが、それを発展させた、『百見は一験に如かず』という言葉がある。百回見るより、一度の行動、体験することが大きいということを、みなさんと作業をしてみて感じた。これからも一緒に発展できることを支援していきたい」と研修を締めくくりました。

夢へのかけ橋実践塾 7月26-27日

新堂塾OBOGフォローアップ研修会

新堂塾の1期生～4期生までオブザーバーを含めて、5年ぶりにフォローアップ研修会を実施。1日目は武蔵野千川福祉会の事業所を見学、翌日はヤマト運輸本社会議室で報告会を行いました。新堂塾の学びは、利用者さんの生きる力・学ぶ力・暮らす力を育てていくことを目指しています。働いて、社会の中で暮らしていくために、利用者さんの給料を上げていくことが、支援者の大きな仕事でもあります。入塾時、3,000円程度だった平均月額工賃が10年経った今、45,000円に、売上も2,000万円に。平均工賃が7,000円から20,000円に上がったという報告も。新堂塾の学びは着実に成果に繋がっています。

YWF TOPICS

組合員のみなさまから夏のカンパより6,653万円のご寄付をいただきました 小倉昌男初代理事長の思いをつないで、財団の活動を続けていきます

ヤマトグループ企業労働組合連合会様より夏のカンパのご寄付をいただき、9月5日、ヤマト運輸労働組合第79回定期中央大会(新潟県・湯沢カルチャーセンター)の中で贈呈式が行われました。

贈呈式で山内理事長は「ヤマト福祉財団は宅急便を生み出した小倉昌男さんが1993年に設立しました。『小倉昌男の思いをつないで　ヤマト福祉財団30年の報告』として、今までの歴史や活動の内容をみなさまに知っていただくために冊子にまとめました。小倉昌男さんがどういう思いで「福祉」という事業を始めたのか・・・「みんなが幸せに暮らせる社会にしたい」という思いです。最初は宅急便というサービスを通して「世の中の皆さんに幸せを届けよう」「便利な世の中にしたい」ここから始めました。そして宅急便の事業から今度は福祉という世界で、「障がいのある人もない人もみんなが一緒に幸せに暮らせる社会をつくりたい」、このような思いでヤマト福祉財団を設立されました。私たちはその思いをこれからもつないでいかなければいけないと思います。

財団の活動は、小倉昌男さんが持っていたヤマトの株を原資に、その配当で運営することになりました。30年史の中にも書いていますが、労働組合が毎年実施している夏のカンパからの寄付金も財団活動原資の大きな柱となっています。夏のカンパは1994年から2023年まででヤマト福祉財団への寄付総額が13億円を超えています。

本当に本当に大きな力をいただいています。夏のカンパを通して、また賛助会員という形で、社員一人ひとりの思いが詰まっているこういった財団であるというのが私たちの誇りでもあり、ヤマトグループの誇りであると感じています。改めて感謝を申し上げます」

と、大会に参集された全国の組合を代表する役員のみなさまに御礼をお伝えしました。

ブリッジネットワーク 夢応援セミナー「お母さんの働く夢をかなえたい」開催 7月18日(木)

ヤマト福祉財団が支援している(NPO)医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク(ブリッジネットワーク)主催による「夢応援セミナー」が、沖縄市にて開催されました。セミナーでは、医療的ケアが必要もしくは重度心身障がいのあるお子様を持つ県内の母親等を対象に、ブリッジネットワークの資格取得支援制度や楠元塾の活動を紹介したほか、障がい者福祉サービスの制度や起業に関する勉強会を行いました。楠元洋子理事長はご自身の経験を踏まえながら、「お母さんが仕事を通じて社会に出ていくことは、子どもさんも社会に出していかれること」と話され、働く夢に向けての第一歩を踏み出せるよう激励しました。参加者からは「希望の光が見えてきた」、「他のお母さんにも聞いて欲しい」との感想をいただきました。

2024年度ヤマト福祉財団奨学金贈呈式を行いました

土屋彩華さん
金城学院大学
薬学部薬学科3年

山本栞奈さん
熊本学園大学
社会福祉学部
社会福祉学科4年

ヤマト福祉財団では、将来社会の役に立ちたいと志を持って学ぶ大学生に月額5万円(返済不要)の奨学金を差し上げています。今年度は70名の応募があり、8名が選考されました。

ヤマト福祉財団 News No.84
10月20日発行 2024 Autumn
公益財団法人ヤマト福祉財団

詳細情報・最新情報は https://www.yamato-fukushi.jp/
ご意見、お問い合わせは y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp まで

Information of the Art

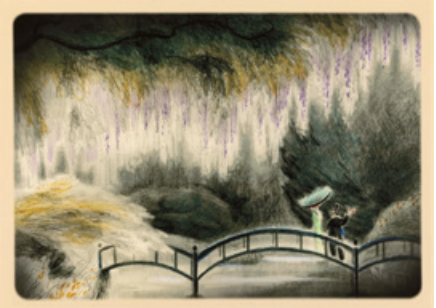
ブラチスラバからやってきた！ 世界の絵本パレード

パロマ・バルディビア《問いかけの本》(グランプリ)2022年
©Paloma Valdivia

アネテ・バヤーレ=バブチュカ《ふたりのアルマ》(金のりんご賞)2021年
©Anete Bajāre-Babčuka

きくちちき《ともだちのいろ》2021年 © きくちちき

マエヴァ・ルブリ《わたしの街、あなたの街》(金のりんご賞)2019年
©Maeva Rubli



ダニ・トゥレン《一等車の旅》(金のりんご賞)2018-2020年
©Dani Torrent

絵本のイラストレーションの祭典！

ドナウ川ほとりの都ブラチスラバは、中央ヨーロッパに位置するスロバキア共和国の首都です。この地で2年ごとに開催される世界最大規模の絵本原画コンクールが「ブラチスラバ世界絵本原画展」(略称BIB=Biennial of Illustrations Bratislava)です。

1965年のユネスコと国際児童図書評議会による提唱にもとづき創設され、1967年に当時のチェコスロバキアで第1回展が開催されて以来、各国の今を代表する絵本イラストレーションが一堂に会する機会として高い評価を得ています。

本展覧会は、2023年10月から12月にかけて現地で開催された「BIB 2023(第29回展)」の出品作品の数々をご紹介いたします。

世界的な視点から創作の背景まで

第1部では、参加した36か国、275名による355冊の絵本、総計2,072点の原画の中から国際審査を経て選ばれたグランプリのほか、金のりんご賞(5点)など各賞の受賞作品をご紹介いたします。加えて、スイスおよびスペインの受賞者への現地取材をもとにした特別展示もご覧いただけます。

第2部は国内選考会を経て日本代表として出品した作家10組の絵本と原画作品を展示いたします。ここでは各作家への取材を通して明らかにされた創作の背景も併せてご紹介いたします。

2年に一度の活気にあふれた祭典の雰囲気を、絵本原画と関連作品および資料を通してお楽しみください。

ヤマト運輸株式会社は本展作品の輸送・展示に協力しています。

DATA

開催期間 ▶ 2024年10月12日(土)～ 11月17日(日)
休 館 日 ▶ 水曜
開催場所 ▶ 喜多方市美術館
アクセス ▶ JR喜多方駅から約1.5km　徒歩20分、タクシーで5分
磐越自動車道会津若松ICから約19km　車で25分
磐越自動車道会津坂下ICから約20km　車で25分
会津縦貫喜多方ICから約4km　車で10分
開館時間 ▶ 10:00 ～18:00　※入館は閉館30分前まで

観 覧 料 ▶ (税 込)

一般	65歳～74歳	小・中・高校生	未就学児・75歳以上
600円	300円	250円	無料

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は無料。それぞれ第1種または1級の場合は、付き添いの方1名も無料

主 催 ▶ 喜多方市美術館、朝日新聞社
後 援 ▶ 駐日スロバキア共和国大使館、絵本学会
協 力 ▶ スロバキア国際児童芸術館(BIBIANA)、一般社団法人日本国際児童図書評議会(JBBY)、喜多方市立図書館
問い合わせ先 ▶ 0241-23-0404
喜多方市美術館HP ▶ www.kcmofa.com
巡回情報 ▶ 千葉市美術館　2025年3月22日(土)～ 5月18日(日)
足利市立美術館　2025年5月24日(土)～ 7月2日(水)
うらわ美術館　2025年7月12日(土)～ 8月31日(日)
横須賀美術館　2025年9月13日(土)～ 11月3日(月・祝)
砺波市美術館　2025年11月15日(土)～2026年1月12日(月・祝)

今年は8大アレルゲン不使用のケーキでハッピークリスマス

今年の8大アレルゲン不使用ケーキは、「ハッピーショコラフレーズ」と、「ハッピーショートケーキ」の2種類を用意しました。新潟県産コシヒカリ100%使用で軽い口当たりのスポンジ、豆乳クリームでさっぱりした味わいに仕上がっています。今年もスワンのケーキでメリークリスマス!!

お申し込み　10月20日(日)～11月25日(月)
お届け期間　12月20日(金)～12月24日(火)
●障がい者施設からもご予約いただけます。

お問い合わせは 株式会社スワン
0120-230-787
スワンベーカリー　検索

※本品は、独立した製造ラインで製造し、玉子・乳・小麦・そば・落花生・くるみ・えび・かにアレルゲンについて検査した後に出荷しています

つたわるフォント 読みやすさを追求した書体
VEGETABLE OIL INK